

### 1. 到達目標

#### A) 一般目標

医師としての基礎を築くために、超高齢社会において頻繁に遭遇する疾患、病態の診断と治療に必要な知識と基本的技能、問題解決方法を経験、理解、実践できるようにする。また他の医療従事者との協調性、患者および家族に対する医師としての必要な知識、態度、価値観を身につけ、指導医の監督のもと単独で外来診療、入院診療を担うことができる能力を養う

#### B) 行動目標

- (1) 医師としてのみならず、社会人として自己管理能力を身につけ、生涯にわたって自立的に学び続ける姿勢を身につける。
- (2) 患者および自らを含めた医療従事者に良質で安全な医療を遂行できる。
- (3) 患者および家族と良好な関係性を築くために必要な適切な言葉使い、礼儀正しい態度、身だしなみを学び、遂行できる。
- (4) 個々の患者、家族、社会状況なども考慮した全人的視点をもって医療面接や全身の身体診察、検査結果の説明、インフォームドコンセントを行うことができる。
- (5) 各種検査結果の意義を理解し、結果を正しく評価し最適な治療法が選択できる。
- (6) カンファレンス、病棟回診時において症例提示を適切に行うことができる。
- (7) チーム医療の一員として多職種の職員と良好なコミュニケーションをとることができる。
- (8) 退院支援、社会復帰支援、在宅医療について経験し、地域医療について理解できる。
- (9) 自分の行った診療を記録する習慣を身につける。
- (10) 担当患者の急な変化にも対応できるようにする。

### 2. 方略(On the job training(OJT))

#### (1) 病棟

1. 担当医として入院患者を受け持ち、主治医の指導のもと医療面接、身体診察、検査の立案、結果の把握を行い治療計画の立案をする。担当患者の回診を行い、診療録を作成し、適宜主治医と方針を相談する。主治医と協議の上、担当患者の処方、リハビリテーションなど治療にかかわるオーダーを積極的に行う。
2. 患者および家族への検査結果および病状説明を適宜行い、退院調整なども積極的に関与する。
3. 診療にかかわる診断書、依頼書、紹介状およびその返事、入院診療計画書、退院時指示書、入院診療要約など諸書類の作成を指導医とともに行う。
4. 高齢患者によくみられる褥瘡、排尿障害、せん妄などの多職種医療チームの役割を理解し、参加する。

#### (2) 外来

1. 内科外来において初診患者を中心に、指導医の指導のもと医療面接、身体診察を行い、診療録に記録する。検査の立案および結果の把握、治療計画を立案し、処方などを行う。
2. フレイル・ロコモ外来の概要を理解し、対象者の評価を行う。

#### (3) 症例検討会(カンファレンス)

定期的なカンファレンスでは担当患者に関するプレゼンテーションを行う。また担当患者以外の様々な議論に

参加し、積極的に意見を述べるようにする。

(4) 勉強会

内科各科の指導医、上級医からのミニレクチャーを受けるのみならず、医学雑誌にも目を通して、各種疾病、病態、治療に関して幅広いアップトゥデートな知識を吸収する。

(5) その他

在宅医療の実際を見学体験する。

### 3. 評価

- (1) 研修医は、EPOC2 の研修医評価表で、臨床研修到達目標項目の自己評価による研修達成度評価を行い、ローテート終了時に自己評価記載を完了する。指導医は、同評価表の研修医自己評価を確認し、当該ローテート研修の指導医評価記載を完了する。指導医による評価結果は EPOC2 上でフィードバックされる。
- (2) 臨床研修指導医は、EPOC2 上で診療・手技・患者マネジメントについて適時評価を行う。
- (3) 臨床研修指導医または上級医は、本カリキュラムの行動目標のすべてに対する観察を行い、ローテート面談を適宜実施し、形成的評価をフィードバック面談シートに記録する。ローテート終了時の面談では、適宜看護師などの指導者も入り、総合的評価のフィードバックを行い、フィードバック面談シートに記録する。
- (4) 臨床研修指導医は、研修医が作成した病歴要約により、経験すべき症候、疾病、病態に関する理解度について WPOC2 上で形成的評価を行う。
- (5) 上記評価の上、次のローテーションで何を学ぶべきかなど、目標達成の方向性を見出せるように省察の時間を持ち、話し合いを行う。

### 4. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前			外来診療 指導医の下		外来診療 指導医の下
午後	老年内科 カンファレンス フレイル・ロコモ カンファレンス	病棟 カンファレンス	フレイル・ロコモ 外来	在宅診療	フレイル・ロコモ 外来
適時	回診、勉強会、ミニレクチャー、検査、 各種医療チームへの参加、病状説明(陪席)、退院カンファレンスなど				